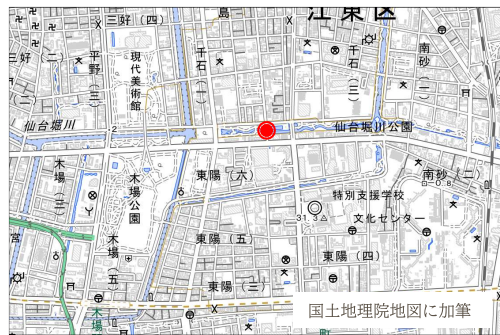


千田橋

橋梁形式：三径間連続非合成钣桁橋
 架設年次：昭和4年12月
 所在地：江東区千石二丁目から
 東陽六丁目間仙台堀川に架かる
 橋長：38.7m
 幅員：11.8m



昭和53年撮影



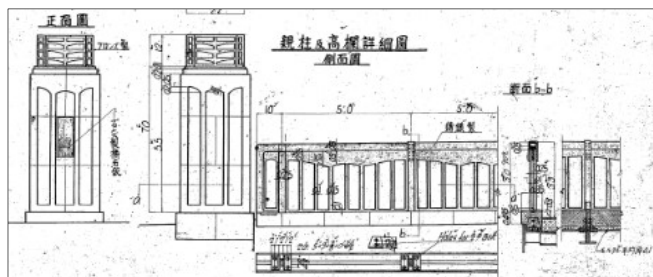
現在の様子



現在の様子

千田橋は、大正12年に発生した関東大震災の復興事業の一環として架けられた「震災復興橋梁」の一つです。

連続橋とは、主桁や主構などの主構造が2径間以上にわたって力学的に連続している橋のことです。



説明板設置工事について

令和5年に関東大震災から100年を迎えるにあたり、過去の記憶や震災復興橋梁の歴史を広く区民に継承し、防災意識の啓発を図るために震災復興橋梁の説明看板を設置しました。

震災復興橋梁について

大正12年(1923年)9月1日の午前11時58分、神奈川低部(または相模湾北部)を震源とするマグニチュード7.9の大地震(大正関東地震)が発生しました。
 震災前、東京市の橋の大部分は木橋で、多くの橋が被害を受けました。
 震災直後から昭和5年(1930年)にかけて、復興事業の一環として架けられた橋梁は「震災復興橋梁」と呼ばれています。
 東京市に架けられた「震災復興橋梁」の数は、8年間で約400橋で、江東区域にも多くの「震災復興橋梁」が架けられました。
 一部の橋は、改修や補修を重ねながら、現在も都市の交通を支えています。

千田橋の概要
 橋梁形式：三径間連続非合成钣桁橋
 橋長：38.7m
 橋梁幅員：11.8m
 架設年月：昭和4年12月

江東区

